42　『日本霊異記』の中の身体に関わる表現

計良吉則
順天堂大学医学部医史学研究室

『日本霊異記』は南都薬師寺の僧景戒により編修された、日本最初の仏教説話集で、弘仁十三年（八二二年）頃の成立とされる。そこには半僧半俗の沙弥である景戒の、奇譚意識と規範意識がみられる一方で、平安初期の時代苦も描写されている。

『日本霊異記』の中には身体に関わる表現が多くみられている。それらに着目し考察することは、当時の身体観を知るうえで意味があると思われる。

一、身体の動作や状態を示す表現

まず特徴的なのは、「走る」や「入る」、「投げる」などの体の移動や運動に関するものが多いことである。上巻第一に「走還時、豊浦寺与二飯岡一間、鳴電落在。」、同第二に「其家室於二稲春女等一将レ充二間食一入二於碓屋一。」、同第三に「力王自二住家一出、取二其石一而投。」とある。

また生死に関する表現も多く、上巻第四に「向二厩戸一産。故曰二厩戸一。」、「然後厩覚忽然命終。」とある。

次に「居る」や「住む」などの存在を表すものもみられ、上巻第五に「其金山頂居二一比丘一。」、同第六に「住二興福寺一、供二養其像一卒不レ息。」とある。

婚姻や契りに関するものは比較的少ないが、上巻第二に「女、「聴」答言、即将二於家一交通相住。」がみられている。

一方、「嫉妬」、「瞋怒」などの感情、精神作用に関するものも多くみられる。中巻第一に「逕二之二日一、有二嫉妬人一、讒二天皇一奏、」、「爰天心瞋怒、遣二軍兵一陳之。」とある。

また病的状態に関するものがみられ、中巻第二に「爰男子得レ病臨二命終時一、」、同第五に「忽得二重病一。又逕二七年一間、医薬方療猶不レ愈。」とある。

容貌などに対する美的表現は数少ないが、上巻第二

に「三乃国大乃郡人応レ為レ妻覓二好嬢一乗レ路而行。」とある。

そして老若に関する表現もみられている。上巻第十一に「時寺辺有二漁夫一。自レ幼迄レ長、以レ網為レ業。」とある。

体の清潔に関するものは比較的少なく、上巻第八に「先潔二其身一、香水澡浴、依二方広経一。」とある。

二、身体の部分や分泌物を表現したもの

全体を通して多くみられるのが「身」で、下巻第一に「懸レ巌投レ身而死。」、「投レ身曝レ骨、而髑髏中、」などとある。

四肢に関するものもみられていて、下巻第一に「以二麻縄一繋二二足一、」、同第九に「即下二右手一、摩二我頂一告、」とある。

腹、腰などの体幹に関するものもみられ、中巻第七に「九十一劫、常堕二婬女腹中一生、」、上巻第七に「水及レ腰時、以二石当一レ脚、」とある。

面、頚などの頭頚部に関するものもみられ、下巻第四に「匿レ面而居、受二其供養一。」、同第七に「誅二十二人頚一訖時、」とある。

また目、耳、口などの五孔を表すものがみられ、中巻第三に「子、以二牛目一眦レ母而言、」とあり、同序に「勝レ　忝レ虜、顔　耳熱。」、「談レ口不レ利。」とある。

そして血、乳などの分泌物に関するものもみられ、中巻第一に「頭破流レ血。」、同第二に「母随二子言一、乳令レ飲二病子一。」とある。